

二〇二二年度

第三回 入学試験問題

国語（五十分）（全十ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の若葉の夢はお笑い芸人。高校に入学して理想の相方を探していたが、とあるハプニングからウエイトリフティング部に入ることになる。そこで友人になったオリピック出場を目指す弥生との交流を通して、若葉にとってウエイトリフティングは次第に大切なものになっていった。

関東大会の一週間前、強風で飛ばされた大きな松の枝によって弥生は左肩を負傷する。病院の検査の結果、肩に異常はなかったが、大会当日どこか上の空で様子がおかしい。次の場面は、弥生が優勝を逃したところから始まる。

すぐに表彰式が行われた。

選手が退場した後、若葉は控え室をのぞいた。弥生が窓の外をぼうつと見ていた。

「お疲れ！ 頑張ったね」

わー、緊張したよ、と振り向いてくれたら、いつもの弥生に戻ったと安心できるのに、そうはならなかった。

「どうも」

「来年はあたしもここへ来る！ って気合い入れるつもりだったけど、なんか見てるだけで□□っていう気になっちゃった」

「うん……」

「着替える？」

「そうだねえ」

控え室を出て、弥生はガラス張りの渡り廊下へ出た。エントランスの外に救急車が止まっているのが見える。何かあったときのために、大会中は最初から最後まで待機しているらしい。

「①ああいうのが、ものものしいよね。ウエイトリフティングっていう競技は」

若葉が指差すと、弥生はそちらを見ながら返事した。

「ごめんね」

「なにが」

「ウザくて、あたし」

「え？」

「なんとか今日は切り替えようと思ったんだけど、無理だった」

「あ、うん……」

何を切り替えたかったの？

弥生は渡り廊下が終わったところにある自動販売機の前のベンチに座った。真ん中に座ればいいのに、端っこへ浅く腰かけている。

エアコンはなく、空気がひんやりしていたが、ガラス窓から日光がこぼれ込んでくるので、寒さは感じない。

「ねえ、なんかあった？ 肩は本当に——」

「肩、は、だいじょうぶ」

「てことは、え、他にどこか」

②若葉は弥生の顔を覗き込むように見ながら続けた。

「うちの兄貴も心配してるんだ」

「松の枝ごときじゃ、あたしの身体はどうにもならないよ。そんな心配は本当に不要だから。ごめんね」

「じゃあ、何？」

③言いたくない」

「どうして」

「言ったら、もう揺るがない事実になっちゃう気がするから」

「よくわかんないけど……言わなくても、事実は変わらないよね？」

うん、うん、と何度も弥生はうなずく。

「そうなんだ……わかってるんだ……あのさ」

途切れたけれど、④若葉は辛抱強く待った。

「昨日、検査の結果が出て、全然関係ないところに、思いがけないことが」

「え？」

「思いがけないっていうのは、違うな。後から思えば、そうだそうだ、って思い当たることはいくつもあって」

⑤弥生はにやつと笑って続ける。

「ごめん、もったいぶって、じらしてるわけじゃないんだ。ただ、言いづらくって。あたし、先天的に向いてないんだって」

「え……。なにが」

「知らないよね、グロインペイン症候群なんて」

「それ……なに」

「またの名を鼠径部痛症候群ともいう。ますます知らないよね」

「うん……それは、病気なの？」

「病気……というか、スポーツ選手がよくなる、*2こかんせつ股関節の痛み」

と、弥生は手で、太ももの付け根をぼんぼんと軽く叩く。

「そっか……。でも、そういうえば、股関節痛に気をつけなきゃ、って先生も言ってたよね。ウエイトリフティングやっていると、いずれは発症するものなんじゃない？ あたしだってそのうち」

⑥若葉はさらに力を込めた。

「つまりさ。弥生は、ちよつと無理すぎて、早く発症しちゃったってことかな。少しペースダウンすれば——」

「違うんだ」

「え」

「こんなに早く発症するのは、生まれつき、股関節の形が、おかしいとまでは言わないけど——つまり日常生活をふつーに送るだけなら、年取ってよほど変な転び方でもしないかぎり平気らしいんだけど——ウエイトリフティング向きじゃない。スポーツ向きじゃないんだって。痛みがひどくなって、きつと練習どころじゃなくなる、って」

そういうえば、弥生に「足の付け根に電流が走らないか」と聞かれたことがあるのを思い出した。

「もちろん、ほどほどにやれば続けられないことはないかもしれないけど

ど、それでも高校三年間で終わらせる、って」

「大学では、ダメってこと……？」

弥生はうなずいた。

「あたしのオリンピックが消えた」

若葉の耳に、自分が唾を飲み込む音が聞こえた。何を言おう、何を言えればいいのか……。オリンピック出場が□□に聞こえた、あの頃とは

違う。弥生は部活を始めて一年以内で関東大会に出場した実績を持っている真のホープなのだ。

「セカンドオピニオンってあるよね？」

「え、なにそれ」

「ほら、がんとか重い病気るとき、別の病院で意見聞くと、全然違う治療法を提案されたり。そういう可能性を探ってみたら」

弥生は、目を閉じてゆっくり首を振った。

「どうして？ 調べてみなきゃわかんないよ」

「お父さんも同じ症状だった」

「え!？」

「お父さんも、生まれつき股関節が弱くて、おんなじように診断されたんだって。お母さんが昨日の夜、言ってた」

「え、え、でも」

「⑦夏に長谷高へ来たとき、お父さん、すごい怒ったでしょ？ そういうことだった」

*4ながつきしわすかんとく
長月師走監督が練習場へ顔を出した日のことを、若葉は思い返して
いた。

「あたしとお父さん、一卵性親子なんて言われるくらい似てたから、お父さんにはわかったんだね。きっと股関節にトラブル起きるってこと。だから、やめるように、って言って。お母さんにはあの時点でくわしく話してみたい」

「え、お母さんはじゃあ……知ってた……っていうこと？」

「うん。だけど、あたしには言わなかった。遺伝するとは限らない。娘に一方的に言ったら、不安で練習もできなくなる。何決めつけてんだよ、家を出て行った父親のくせに。そう思って、敢えて何にも言わなかった。って。やっぱり早く話せばよかったね……ってお母さん、泣いてた」

弥生も泣いていた。関東大会の□□日なのに、ベンチで二つ折りになって、涙をぼたぼた床に落としている。

どうしよう。どうしよう。

若葉は弥生の背中に手を置いた。上下にさすった。⑧そこにスイッチがあつたみたいに、弥生は嗚咽し始めた。弥生と同じように下を向いていた若葉は、視界に黒いシューズが入ってきたのに気づいて、え、と顔を上げた。

*5たかみ
鷹見先生がいた。それから泉平と雄途と泰知とマネージャーふたり。
*6せんべい
そして建太と大翔までもが立っている。
*7
*8ひろと

「ごめん、だいたい聞こえちゃった」

そう言ったのは鷹見先生だった。弥生も若葉も返事ができずにいると、

泉平が進み出て、弥生の背中にジャージをかけた。

「風邪ひく」

こくつと、彼女がうなずく。

「オレも、オリンピック行きたいって思ってる」

「え？」

泉平は苦笑した。

「笑つちやうよな。一年前は、こんなこと考えもしなかったよ。中学では将棋部しょうぎだったんだよ、オレは。ウエイトリフティングをやるとも思っ
てなかったし、まさか関東大会に出るとも。さらに、緊張しまくって惨敗さんぱい
するとも思ってたなかった。⑨めまぐるしすぎるよ」

「うん……」

弥生がうなずいた。

「⑩めまぐるしすぎる。夢もって、砕くだけて……早すぎる」

「病院、オレも行くよ」

「え？」

「オレも、先生にくわしく話を聞く。オリンピックのメダリストの中だ
って、股関節痛と付き合いながらやってた人がいるって、本で読んだよ。
だから、可能性はあるかもしれない。おまえとお父さんの股関節が完全
にいつしよとは限らないし」

くすくすと弥生が笑い出した。まだ涙も乾かわいていないから、泣き笑い

だ。

「何笑ってたんだよ」

「だって、股関節、股関節、って連呼するからさ」

「しようがねーだろ。おまえが言い出したんだ」

若葉も笑いがこみあげてきた。それをこらえる必要はない、と思った。
今頃確認いましらしても遅おそいんだけど、やっぱり弥生はお笑いのセンスがある。
こんなときに、突つっ込みを入れられる相棒が、わたしは好きだ。

(吉野万理子『空色バウムクーヘン』より)

*1 ウエイトリフティング……両手で頭上まで持ち上げられる重さを競きそう
競技。

*2 股関節……足の付け根の関節。

*3 長谷高……鎌倉長谷高校。若葉たちの通う学校。

*4 長月師走監督……弥生の父親だが、現在は離はなればなれに暮らしている。
大学でウエイトリフティング部の監督をしている。

*5 鷹見先生……鎌倉長谷高校ウエイトリフティング部の顧問こもんの先生。

*6 泉平と雄途と泰知とマネージャーふたり……鎌倉長谷高校のウエイト
リフティング部員。

*7 建太……若葉の幼なじみ。

*8 大翔……若葉の兄。

問一 — 一・二・三 に入る言葉として適当なものを、次の

意味を参考にア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

一 (程度が異なるさま)

ア さじを投げる イ 足もとを見る

ウ 骨が折れる エ 格が違う

二 (おおげさに言うこと)

ア 不言実行 イ 一口両舌

ウ 大言壮語 エ 異口同音

三 (表立ってはなやかであるさま)

ア 晴れがましい イ いちじるしい

ウ しかつめらしい エ すがすがしい

問二 — 線①「ああいうのが、ものものしいよね」とありますが、ど

のような様子がものものしいのですか。三十字以内で説明しなさい。

問三 — 線②「若葉は弥生の顔を覗き込むように見ながら続けた」と

ありますが、ここから若葉のどのような気持ちを読み取れますか。

本文中から二字で抜き出さない。

問四 — 線③「言いたくない」とありますが、なぜですか。理由を

説明した次の文の空欄に入る言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出さない。

病院の検査の結果、弥生はウエイトリフティングが【1九字】

ことが分かったが、それを若葉に言ってしまうと、【二十七字】と感じたから。

問五 — 線④「若葉は辛抱強く待った」とありますが、なぜですか。

適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 落ち込んでいる弥生が、その理由を話そうとしていることに気づいたから。

イ 事情をはっきり説明しようとする弥生に、こみ上げる怒りをおさえているから。

ウ 負けたショックから立ち直っていない弥生に、かける言葉が見つからないから。

エ 肩の負傷を悔しがっている弥生が落ち着くまで、様子を見ようと思ったから。

問六 — 線⑤「弥生はにやっと笑って続ける」とありますが、弥生の

様子を説明したものとして適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 知識をひけらかして得意げな様子。

イ 自身の状況じょうきょうを情けなく思っている様子。

ウ 心配事を打ち明けてすっきりした様子。

エ 相手を驚おどろかせようとたくらんでいる様子。

問七 — 線⑥「若葉はさらに力を込めた」とありますが、なぜですか。

適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弥生を元気づける糸口を見つけて、意気込んでいるから。

イ 弥生をなぐさめたいが、空回りすることを恐れているから。

ウ 弥生が病気を敗退わげの言い訳いわけにすることに、「憤いらいらっているから。

エ 弥生の言葉が信じられず、不安から逃れようとしているから。

問八 — 線⑦「夏に長谷高へ来たとき、お父さん、すごい怒ったでしょ？」とありますが、「お父さん」はどのようなことに対して怒ったのですか。五十字以内で説明しなさい。

ア 少しずつ イ 静かに ウ 激しく エ 急に

問九 — 線⑧「そこにスイッチがあったみたい」とありますが、この比喩表現は弥生がどのように泣き出したことを表していますか。

適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少しずつ イ 静かに ウ 激しく エ 急に

問十 — 線⑨・⑩「めぐるしすぎる」とありますが、誰だれがこのように感じていますか。本文中から登場人物の名前をそれぞれ二字で抜き出しなさい。

ア 弥生が、股関節の痛みいたみのせいで優勝うしよできなかったからって、ウエイトリフティングあきらを続けることを半ば諦めようとしているのには驚いたよ。

問十一 次の文は、四人の中学生が本文の読後感を述べたものです。本文の内容に合致がっちするものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弥生が、股関節の痛みいたみのせいで優勝うしよできなかったからって、ウエイトリフティングあきらを続けることを半ば諦めようとしているのには驚いたよ。

イ 皆みんなの説得せつとくに反してウエイトリフティングをやめる決意を固めた弥生だけど、若葉がお笑い芸人としての才能を見抜いていたから、きつと環境かんきょうが変わっても活躍かつやくできるんじゃないかな。

ウ 若葉は、相手の言葉にすばやく反応してその場の雰囲気きづかを明るくしたものにする弥生の様子を見て安心したからこそ、最後には一緒いっしょに笑い合っていたんだね。

エ 若葉と弥生の両方の視点しんていで描かれていたから、弥生を気遣う若葉の気持ちにも、弥生の思うようにいかなくてつらい気持ちにもとても共感きんかんできたよね。

ア 少しずつ イ 静かに ウ 激しく エ 急に

問十二 次の文は、四人の中学生が本文の読後感を述べたものです。本文の内容に合致がっちするものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弥生が、股関節の痛みいたみのせいで優勝うしよできなかったからって、ウエイトリフティングあきらを続けることを半ば諦めようとしているのには驚いたよ。

イ 皆みんなの説得せつとくに反してウエイトリフティングをやめる決意を固めた弥生だけど、若葉がお笑い芸人としての才能を見抜いていたから、きつと環境かんきょうが変わっても活躍かつやくできるんじゃないかな。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

2013年に、和食がユネスコ^{*1}の無形文化遺産に登録された。登録にいたったのは、自然を尊重する日本人の基本精神にのっとり、地域の自然特性に見合った食のAカンジユウや行事を通じて家族や地域^{*2}コミュニティの結びつきを強める重要な文化だからというのが主な理由だ。大変いいことだと思う。①これを機に、和食と日本人の暮らしについて過去の歴史をふり返り、食の文化をBハグクンできた日本列島の自然と人間との関わりについて多くの人々が思いをめぐらすようになってほしい。

私の専門分野である霊長類学^{れいじょうるい}は、人間に近い動物の生き方から人間の進化や文化を考える学問である。人間以外のサルや類人猿^{えん}（ゴリラやチンパンジー）を野生のCセイソク地で追っていると、「生きることは食べることだ」と思い知らされる。彼らの主な食べ物^{かれ}は自然のあちこちに散らばり、季節によってその姿を変える植物だ。いつ、どこで、何を、どのように食べるかが、一日の大きな関心事である。群れをつくって暮らすサルたちにとっては、それに加えて「②」が重要となる。いっしょに食べる相手によって、自分がどのように、どのくらい食物に手を出せるかが変わるし、相手を選ばないと、食べたいものも食べられなくなってしまうからだ。

日本列島には43万〜63万年前からニホンザルがすみついてきた。人

間が大陸から渡^{わた}ってきたのはたかだか2万数千年前から、彼らのほうがずっと先輩^{せんぱい}である。日本の山へ出かけてサルを観察すると、彼らがいかにも四季の食材を食べ分けているかがわかる。新緑の春には若葉^{しやくねつ}、灼熱^{しやくねつ}の夏は果実と昆虫^{こんちゆう}、実りの秋は熟した色とりどりの果実、そして冷たい冬は落ちたドングリや樹皮をかじって過ごす。

サルに近い身体をもった人間も、これらの四季の変化に同じように反応する。もえいずる春には山菜が欲しくなるし、秋には真っ赤^うに熟れた柿^{かき}やリンゴに目がほころぶ。サルと同じように人間も長い時間をかけて植物^{*3}と共進化をとげてきた証^{あか}しである。人間の五感^{*4}は食を通じて自然の変化を的確に感知するようにつくられてきたのだ。

人間にはサルと違^{ちが}うところが二つある。まず、人間は食材を調理して食^{かた}べるといふ点だ。植物は虫や動物に食べられないように、硬^{せんい}い繊維や二次代謝物^{じふたたいせぶつ}で防御^{ぼうえぎよ}している。それを水にさらしたり、火を加えたりして食^{かた}べやすくする方法を人間は発達させた。さらに人間は川や海にすむ貝や魚を食材に加え、野生の動植物を飼養^{*5}したり栽培^{さいばい}したりすることによって得やすく、食^{かた}べやすく、美味にする技術を手にした。人間は文化的雑食者^{*6}であるともいわれる。日本人もその独特な文化によって、ニホンザルに比べると圧倒^{あつぱく}的に多様な食材を手に入れることができたのである。

もう一つの違いは、人間が食事を人と人をつなぐコミュニケーション^{*6}として利用してきたことだ。サルにとって食^{かた}べることは、仲間とのあつ

れきを引き起こす原因になる。自然の食物の量は限られているから、複数の仲間と同じ食物に手を出せばけんかになる。それを防ぐために、ニホンザルでは弱いサルが強いサルに遠慮して手を出さないルールが徹底している。強いサルは食物を独占し、決して仲間に分けたりはしない。そのため、弱いサルは場所を移動して別の食物を探すことになる。

ところが、人間はできるだけ食物を仲間といっしょに食べようとする。

③ひとりで食べられるのに、わざわざ食物を仲間の元へもち寄って共食するのだ。

共食の萌芽はすでにゴリラやチンパンジーに見られる。チンパンジーは時折狩猟をする。力の強いオスがサルやムササビなどを捕まえてその肉を食べるのだ。そんなとき、獲物を捕らえたオスの周りには他のオスやメスたちが群がってくる。めったに得られない④肉の分配にあずかるうとしてやってくるのだ。肉をもったオスは力強いので、その肉を独占して食べようとすればできないことはない。Ⅰ、他のチンパンジーの要求は執拗で、なかなか拒むことができず、ついには引きちぎってとるのを許してしまう。チンパンジーの世界では、どんなに体の大きなオスでも力だけでは社会的地位を保てず、仲間の支持が必要である。肉の分配はその支持を得るために使われているようなのだ。Ⅱ、サルとは違って、チンパンジーはもっぱら弱い個体が強い個体に食物の分配を要求し、いっしょに食べるのである。

最近私たちは、チンパンジーと同じようにゴリラも、オスが大きなフ

ルーツをメスや子どもたちに分配しているのを観察した。オランウータンにも食物の分配行動があることが知られているから、ヒト科の類人猿はすべて、おとなの間で食物が分配されるという、霊長類にはまれな特徴をもっていることがわかる。人間はその特徴を受け継ぎ、さらに食物を用いて互いの関係を調整する社会技術を発達させたのだ。

食事は、人間どうしが無理なく対面できるDキチョウな機会である。人間の顔、とりわけ目は、対面コミュニケーションに都合よくつくられている。人間の目には、サルや類人猿の目と違って白目がある。この白目のおかげで、1〜2メートル離れて対面すると、相手の目の動きから心の状態を読み取ることができるのだ。

顔の表情や目の動きをモニターしながら相手の心の動きを知る能力は、人間が生まれつきもっているもので習得する必要がない。Ⅲ、

目の色は違っても、すべての人間に白目がある。ということは、⑤白目は人間にとつて古い特徴でありながら、チンパンジーとの共通祖先と分かれてから獲得した特徴だということだ。対面して相手の目の動きを追いつながら同調し、共感する間柄をつくることができるのが、人間に特有な能力なのだ。それが人間に独特な強い信頼関係をハグクみ、高度で複雑な社会の資本となってきたと考えることができる。

実は、日本人の暮らしも、食物を仲間といっしょにどう食べるかという工夫のもとにつくられている。日本家屋は開放的で、食事をする部屋は庭に向かって開いている。四季折々の自然の変化を仲間と感じ合いな

から食べられるようにEセツケイえいせつけいされているのだ。鳥や虫の声が響ひびき、多彩たさいな食卓しょくたくの料理が人々を饒舌せうじやうぜつにする。その様子をだれもが見たり聞いたりでき、外から気軽に参加できる仕組みが、日本家屋の造りや和食の作法に組みこまれている。

だが、昨今の日本の暮らしはプライバシーと効率を重んじるあまり、食事のもつコミュニケーションの役割を忘れていくように思う。和食の遺産登録を機に、自然と人、人と人を豊かにつなぐ日本の和の伝統を思い返してほしい。

(山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』より)

*1 ユネスコの無形文化遺産に登録された……国連の専門機関の一つであるユネスコが、「昔から守り伝えられてきた残すべき伝統」として認定したということ。

*2 コミュニティー……共同体のこと。

*3 共進化……複数の種が互いに影響を及ぼし合いながら進化する現象。

*4 二次代謝物……植物が持つ物質。植物の感染防御などに重要な役割を果たしている。

*5 飼養……動物などを飼い、養うこと。

*6 あつれき……争い。

*7 萌芽……物事のはじまり。

*8 モニターしながら……観察しながら

*9 饒舌……口数が多いこと。よくしゃべること。

問一 — 線①「これを機に」とありますが、「これ」はどのようなことを指していますか。解答欄に合うように二十字で本文中から抜き出しなさい。

【二十字】こと。

問二 ②に入る適当な言葉を、五字以上十字以内で考えて答えなさい。

問三 — 線③「ひとりでも食べられるのに」もち寄って共食するのだ」とありますが、その理由を説明した次の文の空欄に入る適当な言葉を、本文中から指定の字数でそれぞれ抜き出しなさい。

人間が【 1 二字 】を【 2 二十五字 】から。

問四 — 線④「肉の分配」とありますが、その目的は何ですか。解答欄に合うように十字以内で本文中の言葉を使って答えなさい。

【十字以内】こと。

問五 □一・□二・□三に入る適当な言葉を、次のア～エの中

から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ しかも ウ または エ しかし

問六 —線⑤「白目は人間にとつてく分かれてから獲得した特徴だ」

とありますが、白目を獲得したことによって、人間はどのようなことができるようになりましたか。次の文の空欄に合うように二十文字以内で答えなさい。

人間は白目を獲得したことによって、【二十文字以内】ことができるようになった。

問七 次の会話は本文について、二人の中学生が話している場面です。

空欄に入る適当な言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出しなさい。

A美 霊長類学って、初めて聞いた学問だったよ。

B子 わたしは、霊長類の生態だけを研究している学問なのかと思っていただけ、実は霊長類の生き方の研究を通して【1 八字】を考える学問なんだね。

A美 サルや類人猿と人間を比べることで、共通するところや違うところが見えてくる。ここでは主に「食」に関することが書かれているよ。

B子 共通するのは【2 五字】に応じてその季節に合ったものを

食べる点だね。人間と違う点は主に二つあるって書いてある。

A美 そうだね。えーっと、一つは、人間は【3 十字】という点だね。そうすることで食べにくい食材も食べやすくする方法を考え出したんだ。

B子 もう一つは、人間は食物を【4 二字】といっしょに食べるということだね。

A美 みんなで食べると楽しいよね。

B子 日本の家屋は【5 十三字】ながら楽しく食べられるように食事の部屋が庭に向かって開いていたり、【6 十一字】仕組みがあったりして、【7 三字】に作られてるんだって。

A美 確かにおばあちゃん家はそうかも。でも、うちは違うな。

B子 最近は、【8 十四字】傾向があるけど、筆者の山極さんは自然と人をつなぐ和の伝統を大切にすべきだと言っているんだね。

問八 ……線A「カンシユウ」・B「ハグク(んで)」・C「セイソク」・

D「キチヨウ」・E「セツケイ」のカタカナを漢字に直しなさい。